

## 最近の三宅島の火山活動（その 10）

### Recent activity of Miyakejima Volcano(10)

# 内藤 宏人[1]

# Hirohito Naito[1]

[1] 気象庁火山課

[1] Volcanological Division, JMA

#### 1．はじめに

三宅島では、2000 年 9 月以来の全島避難は 2005 年 2 月 1 日をもって解除されたものの、多量の火山ガスの放出は継続し、2004 年 11、12 月には 4 回の小噴火が発生した。このように、三宅島の火山活動は依然として活発な状況が続いている。

#### 2．噴火活動

2004 年 11 月 30 日、12 月 2、7～8、9 日の 4 回、約 2 年ぶりの小規模な噴火が発生し、島内に降灰が見られた。

#### 2．火山ガスの放出量

気象庁は、防衛庁・海上保安庁・警視庁・東京消防庁の協力を得て、COSPEC による二酸化硫黄放出量の観測を実施してきた。2000 年秋には一日当たり 7 万トンを超える最大値が観測されたが、その後は長期的には減少傾向となり、2002 年秋以降は、一日あたり 3 千～1 万トン程度でほぼ横這いとなっていた。2004 年秋からは 2 千～5 千トンとやや減少した。

#### 3．火口温度

赤外線熱映像装置による上空からの観測では、2002 年初頭までは山頂火口底の温度は 450 を超える値が観測されたこともあり、山麓のカメラによる遠望観測で火映現象もみられた。しかし、その後は長期的には最高温度は低下し、高温の領域の面積も小さくなってきている。

#### 4．地震活動と微動の発生状況

低周波地震及び高周波地震は 2002 年秋頃から減少し、代わってやや低周波地震が増加していたが、2004 年末の小噴火の発生時とそれ以降に低周波地震が発生するようになった。また、今年に入って、やや低周波地震はバースト的に発生するようになった。

連続微動は 2002 年冬頃から 2005 年 2 月現在までほぼ同じ大きさで続いている。

#### 5．地殻変動

2000 年噴火以降、地殻変動は島の収縮を示していたが、その収縮率は徐々に小さくなってきている。